

# キャンプを体験した女子高校生の集団形成の変容と学校適応感との関連

大坂 勇志 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 林 綾子

キーワード：キャンプ，女子高校生，集団形成，学校適応感

## 1. 緒言

近年、中高生の非行や不登校、いじめ、居場所の喪失など青年の学校への適応問題が大きく取り上げられるようになってきた。友人関係の問題から、学校生活を能動的に送れず、自己の目標を達成できないまま、不登校に陥ったり、不本意ながら休・退学する生徒が増えている。そのため、入学後の早い時期に望ましい学級の集団形成をサポートすることが重要である。筆者はこの問題の対処として、キャンプ活動に着目した。キャンプには人間関係作りを通して学校生活への適応を促進することが認められており、野外教育プログラムを学校現場に応用することの価値が示されている(建元, 2008)。

筆者はキャンプを体験したクラスに望ましい集団形成が期待でき、また入学後の早い時期に望ましい集団形成を図ることは、その後の学校適応感を促進する効果があると期待した。

そこで本研究は、キャンプを体験した女子高校生の集団形成の変容と学校適応感との関連を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

[対象者] 0 女子高等学校に在籍し、2017 年 4 月 20 日(木)～4 月 22 日(土)スポーツコース宿泊研修に参加した 1 年生 26 名を対象とした。また比較のため、同高等学校に在籍し、キャンプではない宿泊研修に参加したキャリア進学コース 32 名を対象とした。

[調査方法] 調査は、アンケート調査を行った。時期：入学直後、キャンプ説明会後、キャンプ終了時、3 か月後(7 月下旬)(表 1)

調査用紙 1. 筆者が独自に作成した集団形成を調べる「理想のクラスアンケート」12 項目。

調査用紙 2. 長谷川、小野寺(2016)が作成した「学力アンケート」と伊藤、松井(2001)が作成した「学級風土質問紙」を元に修正を加えた「集団形成に関するアンケート」9 因子 22 項目。

調査用紙 3. 大久保(2005)が作成した「学校への適応感尺度」4 因子 30 項目。

表 1: アンケート調査内容・時期

内容/時期	入学直後	キャンプ前	キャンプ後	3 か月後
1	○			
2		○	○	○
3				○

## 3. 結果と考察

### 1) 集団形成の変容

キャンプ前後、3 か月後の集団形成得点変容を見るために事前、事後、3 か月後の計 3 回の調査時期とコースを要因とする 2 要因の分散分析を行った結果、有意な差が見られたため、コース別でその後の検定を行った(表 2)。

スポーツコースには、有意な差が見られなかった。

表 2: 集団形成の平均・標準偏差・分散分析

	事前	事後	3 か月	F 値
スポーツ	77.53(8.19)	82.50(12.44)	78.26(11.46)	2.05 $n.s.$
キャリア	64.53(12.75)	74.53(12.19)	75.78(11.52)	9.30***

\*\*\* $p < .01$

本研究ではキャンプ体験は女子高校生の集団形成の変容に影響を与えなかった。スポーツコースの生徒は、キャリア進学コースより有意に高かったことから、キャンプ前の時点で、ある程度の集団が形成されていたことが推測される。

因子別では、「自然な自己開示」因子のみキャンプ前後にかけて有意に向上した。キャンプ直後の自由記述で「ふりかえりでみんなの意見を言い合っている時、積極的に自分の意見を言い出せた」や「登山の時、素直な気持ちで仲間を応援することができた」などキャンプ体験の中で自己開示の様子が記述されていた。

### 2) 学校適応感についてのコース比較

学校適応感について、コース間で対応のない  $t$  検定を行った結果、有意な差がみられなかった( $t(56)=1.428, n.s.$ )。

因子別では、「劣等感のなさ」因子のみスポーツコースがキャリア進学コースより有意に低いことが明らかになった。

### 3) キャンプ 3 か月後の集団形成と学校適応感の関連について

集団形成と学校適応感の関連を調べるため、スポーツコース、キャリア進学コースの 3 か月後の集団形成得点と学校適応感得点を Pearson の相関係数を用いて分析を行った結果、スポーツコースのみ有意な正の相関が見られた( $r=.716***$ )。キャリア進学コースは、有意な相関が見られなかった。

因子別では、スポーツコースにおいては、「生徒間の親しさ」、「自然な自己開示」、「規律の正しさ」、「学級への関与」、「学級への満足度」に学校適応感との有意な正の相関が見られた。集団での行動を居心地よく思い、友人に対して自分から関わる生徒は、学校適応感も高いという関係性が見られた。

### 4. まとめ

本研究ではキャンプ体験は女子高校生の集団形成の変容に影響を与えなかった。今後、クラスの集団形成の状態にあわせたキャンププログラム内容や指導を検討する必要がある。

学校適応感については、クラスや生徒によって適応感に関係する要因が異なっていることから生徒の特性を理解し、学校適応へのサポートを検討する必要がある。

## 引用文献

- 1) 長谷川彬人・小野寺基史(2016)学級集団発達を促す教師の働き, 教職大学院研究紀要, 6:83-94.
- 2) 伊藤亜矢子・松井仁(2001)学級風土質問紙の作成, 教育心理学研究, 4:449-457.
- 3) 大久保智生(2005)青年の学校への適応感とその規定要因, 教育心理学研究, 53:307-319.
- 4) 建元喜寿・本弓康之・小林美智子・吉備豊・中村徹・堀出知里(2008)入学直後の高校 1 年生に対する野外教育プログラムの評価, 国立青少年教育振興機構研究紀要, 8:37-52.